

亡命チベット社会における 5-50 政策

名古屋市立大学大学院人間文化研究科 榎木美樹

1. インドの亡命チベット社会

「世界で最も成功した難民」「難民社会の成功モデル」「難民界の優等生」「成功した社会統合を成し遂げた」「歓迎すべき難民」等、難民としてディアスポラ状態にある亡命チベット人の受け入れ国でのあり方を称して述べる言説は多い。故国を後にしたチベット人がインドに定住地（当初の難民キャンプ）を開いて 60 年以上が経過する。インド内にはこうした定住地が 39 あり、約 10 万人の亡命チベット人が生活している [Planning Commission 2009]。国際社会において現在、チベットを国家と承認する国はどこにもないが、チベット問題に関心のある各国政府および NGO や個人篤志家は公式・非公式な形態でチベット支援を実施している。インド政府を含め外国からの援助は通常、中央チベット行政府（Central Tibetan Administration. 以下 CTA: いわゆる「チベット亡命政府」）各省の立案したプロジェクトに対して実施される。したがって、援助組織や個人といった支援ドナーはプロジェクトを実施する担当省と協議の上、援助の内容や規模を決定する。亡命チベット社会におけるインフラ整備や実施された開発プロジェクトは、一部（寺院や個人）を除いて、概ねこれら内外のドナーから CTA を経由してもたらされる。本稿では、インドの亡命チベット社会において現在実施中の政策と開発計画について記述する¹。

2. SARD の役割

Social and Resource Development Fund (SARD) は、1997 年に CTA 財務省内に設置された、インドの 1960 年社会法登録された組織である。当時を知る CTA 関係者によれば、亡命社会における初代首席大臣を務めたサムドン・リンポチェ² が第 12 次代表議会議員であり議長であった際に

¹ 本調査は、科学研究費補助金（基盤研究（C））「インドにおける改宗を経た仏教徒と亡命チベット人仏教徒との邂逅」の一部である。

² Samdhong Lobsang Tenzin (1939 年 11 月 5 日～現在)。チベット人の中では、サムドン・リンポチェ 5 世として知られる。東チベットのジオル出身。5 歳のとき、サムドン・リンポチェ 4 世の転生者として発見された。1959 年、インドに亡命し、1960 年より教師としてゲルク派の三大寺院からインドに逃れた僧侶の指導にあたった。その後はチベット人学校の宗教教師・学長を歴任した。1971～1988 年の 17 年間、インド政府が承認したチベット学専門の大学である高等チベット学中央研究所（Central Institute of Higher Tibetan Studies, Deemed University）の学長を務め、1988～2001 年には同研究所の理事と

議論を主導して、外国からの資金を合法的に亡命社会に入れる方策として設置された部署である。当初 SARD は、主として資金窓口として役割を担い、その資金を用いた事業実施は CTA 内閣府直属の計画評議会 (Planning Council)³ (現「計画委員会」Planning Commission) が担い、3～5 年ごとの統合開発計画 (Integrated Development Plan) として実施してきた。SARD を直接的に管轄する責任者は参事官 (Director) で、計画委員会 (Planning Commission) 責任者を計画委員長 (Chief Planning Officer) として配置して実務にあたるが、ダライ・ラマ 14 世を名誉顧問に据え、首相や財務省次官をアドバイザー委員として配置し、亡命社会における正統性を担保する形をとっている⁴。

SARD の主なドナーは、欧州委員会、カナダ政府、アメリカ合衆国政府、デンマーク政府、Tibet Fund (国際 NGO) などで [2017-1018 実績]、2019-2020 年度における歳入合計は 465,550,489 インド・ルピー (1 インド・ルピー = 1.5 円として 698,325,734 円となり、約 7 億円) 規模である [表 1]。このように SARD は、海外ドナーからの資金窓口を務め、各省・各機関に配分する。

3. 新政策 5-50 ビジョン

現在、チベット亡命社会では 5-50 ビジョン (Five-Fifty Vision) という開発計画が実行されている。5-50 ビジョンは「最善を願い、最悪に備えよ」(Hoping for the Best and Preparing for the Worst) というダライ・ラマ 14 世の助言から発案され、CTA がこれまで実施してきた中道政策に則って 2017 年に策定された [図 2 および写真 1]。この 5 年間 (2017-2021 年の間) でチベット問題を解決に導くために最大限の努力をすると同時に、チベットの自由を獲得する闘いを支え、その文化を守るために必要であればこの先 50 年間、問題に立ち向かうことができるように備える政策である。この 5-50 ビジョンは、中央政府たるインドの CTA から世界に拡散するチベット人を管轄する組織・居住地に通達され実施されている。

してチベット人子弟の高等教育の現場で任にあたった。CTA に対する直接的な奉職としては、1990 年に憲法起草委員会の委員に就任し、1991-1995 年にはダライ・ラマ 14 世が指名した議員として第 11 次代表議会議員となり、後に同議会の議長を務めた。続く 1996-2001 年の間は、カム地方から選出されて第 12 次代表議会議員となり、同議会の議長を務めた。2001 年からは民衆の直接選挙により就任した初めての首相となり、2 期目 (2006～2011 年) も務めた。

³ 計画評議会 (Planning Council)。CTA カシャ事務局の直轄下にあり、チベット人コミュニティの発展に寄与する社会・経済的プロジェクトを実行するために 1988 年に設置された部署。実施プロジェクトの吟味、CTA の各省の実施したプロジェクトの評価等を行い、コンサルタント的役割を果たす。1998 年より計画委員会 (Planning Commission) に改名。1998 年には世界の亡命チベット人を対象に、チベット史上初の統一された基準で測定されたチベット人口調査 (Tibetan Demographic Survey : TDS1998) を実施した。

⁴ これまではダライ・ラマが宗教界と政界の両方のトップとして、聖俗両会を統べる政体であったが、ダライ・ラマ 14 世に関しては、2012 年に政治的引退を表明し、実際に実行して以降は、宗教界の長としての役割に専念している。政治の権限に関しては、ダライ・ラマ 14 世からその役割を引き継いだ首相 (Sykyong) がその任にあたる。Sykyong は、亡命社会における直接選挙でえらばれる。2012 年以降、政治と宗教の権限は分離されているが、亡命社会における正統性の付与にはダライ・ラマ 14 世による認可や承認が効力を発揮している。亡命社会における憲法に相当する「亡命チベット人憲章」(1991 年) の規程上は、ダライ・ラマの権限は以前のまま記載されており、2012 年の「政治的引退」にかかる変更は加えられていない。CTA 関係者からの聞き取りによれば、議会および亡命チベット人の意向としてはダライ・ラマに政治権限も掌握してほしいと願っているが、ダライ・ラマ 14 世自身がその任を辞退している状態である由。

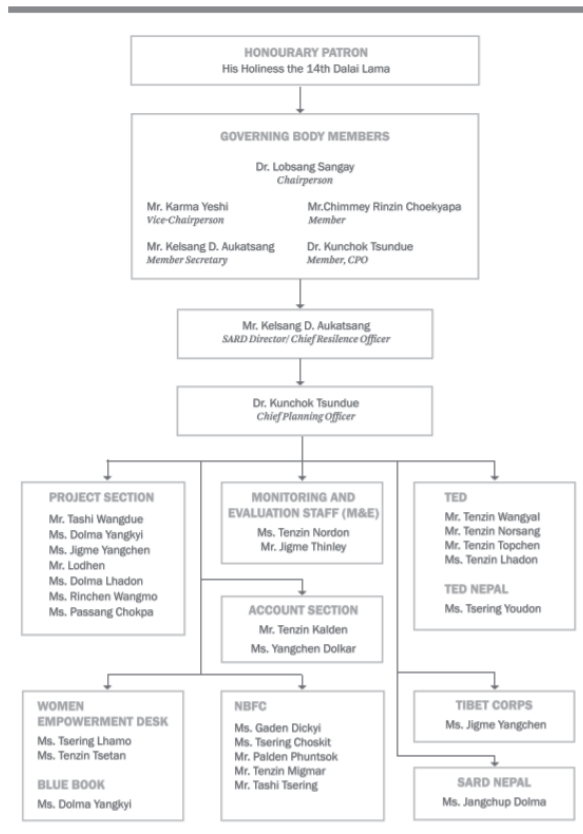
表 1：SARD の歳入（2019-2020 年度）

* 暫定値

貸借対照表（2020年3月末*）	金額（INR）
利子およびその他歳入	34,929,037.94
使途指定資金	
アメリカ合衆国国務省人口・難民・移住局 Grant（PRM Grant）	113,021,192.00
アメリカ合衆国国際開発庁（USAID）	286,976,891.50
個人救済のためのスウェーデン協会（SOIR-IM） [インド NGO]	4,994,059.00
フリードリヒナウマン財団（FNF / ドイツ）	4,296,689.00
ルクセンブルクチベット友好協会プロジェクト（Les Amis Project）	-----
その他（Others）	8,470,747.00
欧州委員会プロジェクト（EC Project）	9,670,241.07
カトリック救援事業会（CRS WED）	2,151,981.65
アメリカ合衆国国務省民主主義・人権・労働局ファンド（DRL Fund）	-----
HBF Project	1,039,650.00
歳入合計	465,550,489.16

[出典：SARD Annual Report 2019-2020: 58 を筆者編集]

図 1：SARD の組織構成



[出所：SARD Annual Report 2016-2017：8]



図 2：5-50 ビジョンのロゴ

[出所：Tibet.net/CTA ウェブサイトより]



写真 1：5-50 フォーラムに出席するダライ・ラマ 14 世とセンゲ首相（写真提供：Tenzin Phende 氏 /DIIR

[出所：CTA ウェブサイト：<https://tibet.net/five-fifty-vision-to-establish-tibets-success-story-cta-president-dr-lobsang-sangay/>]

これまでに計 4 回関連するフォーラムが開催された（計画は 5 回あったが、第 5 回目は、新型コロナウイルス感染症の世界的流行の影響により延期された）[表 2]。CTA 情報・国際関係省が費用を支弁する事前登録制のフォーラム（例えば、2018 年のユースフォーラム）では、現在の居住地ごとに参加者人数の枠を決め、亡命社会全体から万遍なく参加者を募った [表 3]。

若年層の意見をより反映させようと開催された 2018 年 8 月のユースフォーラムでは、4 つに分けられたテーマのそれぞれにおいて CTA に対する提言がなされ、計 34 の提言がまとめられた。それらは、テーマ 1 「チベットと中国：歴史的結びつきの重要性和建設的關係性と交渉の構築」に関して 7 項目、テーマ 2 「チベット本土のチベット人およびチベット人ディアスポラへの応答と包摂」に関して 7 項目、テーマ 3 「チベット自由運動への若年層の意見反映：コミュニケーション、政策提言、国際関係」に関して 9 項目、テーマ 4 「5-50 ビジョンに対する CTA のリーダーシップ：リーダーシップの見える化、資源動員」に関して 11 項目の計 34 項目である。

フォーラムへの提言は、続く 2018 年 9 月の 5-50 フォーラム：しなやかなチベットコミュニティをめざして（2018 年 9 月 13-16 日開催）でもまとめられ、その主要提言総数は 190 項目に及んだ [表 4]。

4. 考察とまとめ

5-50 ビジョンは、中央政府たるインドの CTA から世界に拡散するチベット人を管轄する組織・居住地に通達され実施されている。インドの場合、国内に 39 ある定住地（CTA の管轄部署としては内務省）が実施主体となっており、定住地内の住民とともに取り組む。真の意味での実施主体は定住地内で暮らす一人一人の亡命チベット人であるが、定住地内に居住する各人は定住地事務所

表2：5/50 ビジョンに関する主要フォーラム概要

	開催年月日	フォーラム名称	内容
1	2017/10/7	5-50 フォーラム	DIIR**が主催。 参加者 180 人 (21 か国)
2	2018/08/17-20 (4 日間)	5-50 ユースフォーラム	DIIR が主導。 参加者 100 人 (15 か国) / 20~40 代 / 事前登録制 4 つのテーマ
3	2018/09/13-16 (4 日間)	5-50 フォーラム：しなやかなチベットコミュニティをめざして	SARD (CTA 財務省) が主催 参加者 250 人 (うち専門家 200 人) 4 つのテーマ 1) チベット文化の持続 2) チベットコミュニティの経済発展 3) チベット教育の強化 4) より健全なチベットコミュニティ
4	2019/08/16-19 (4 日間)	第2回 5-50 若者フォーラム：チベットの将来構想	DIIR が主催 参加者 100 人
5	2020/04/2-4 (3 日間) →コロナ禍により延期	5-50 フォーラム：国際チベット組織の地球規模サミット	SARD (CTA 財務省) が主催 参加者 125 人 (予定) 4 つのテーマ 1) チベットに対する国際的アドボカシーの強化 2) チベットの文化、教育、言語の保護 3) チベット組織の強化 4) CTA との連携強化

**） DIIR： Department of Information and International Relations. 情報・国際関係省

表3：2018年ユースフォーラム参加者の選考に際する居住地

居住国	人数 (人)
インド在住者	35
ネパール・ブータン在住者	5
北アメリカ大陸在住者	25
ヨーロッパ大陸在住者	25
アジア太平洋地域在住者	5
CTA スタッフ	5
合計	100

表4：5-50 フォーラム：しなやかなチベットコミュニティをめざして (2018年9月13-16日) への主要提言

テーマ1: チベット文化の保存 ...合計 47 項目
A. チベット文化の特徴と維持 ...10 項目
B. チベット語の維持と発展...7 項目
C. チベット仏教とその価値体系の宣伝と強化 ...10 項目
D. 博物館、図書館、文書館などを通じたチベット文化の保全...10 項目
E. 芸術を通じたチベット文化の維持 ...10 項目
テーマ2: チベット語教育の強化 ...合計 47 項目
教育の質問題 ...21 項目
A. スクール・リーダーシップの強化 ...11 項目
B. 社会的かつ人口学的な教育への挑戦 ...8 項目
C. 基本教育政策の実施 ...7 項目
D. チベット社会における専門家育成 ...10 項目
テーマ3: チベットコミュニティの健全化 ...合計 41 項目
A. チベットコミュニティが直面する健康問題 ...8 項目
B. チベット健康制度の財政的安定 ...15 項目
C. キャパシティビルディングおよび健康増進 ...7 項目
D. チベット医学体系の統合と拡大 ...5 項目
E. 代替可能なサービス提供モデルと予防医療ケア ...6 項目
テーマ4: チベットコミュニティの経済発展 ...合計 55 項目
A. 移民および若年層関連の問題への取組 ...11 項目
B. 定住地における農業モデルへの移行 ...13 項目
C. チベット金融機関とサービスの構築 ...8 項目
D. 中小企業および起業家への支援 ...11 項目
E. 海外在住のチベット人の役割 ...9 項目
追加コメント ...3 項目

の管理下にあり、定住地事務所が管轄する様々な組織に所属したり、接点をもちながら生活している。

上記 2 および 3 で述べたように、5-50 ビジョンは、具体的施策内容というよりは大枠の掲示であり、具体的な施策は各定住地の事情を踏まえて決定される。つまり末端の定住地の個人・組織での具体的活動が重要である。

亡命チベット社会における施策の展開という観点でみると、財政面としては、CTA 財務省管轄の SARD が、CTA 文部省・厚生省への直接支援以外の海外ドナーからの資金を統括し、事業面では中央の政策が内務省を通じて定住地に通達されるというトップダウン型をとる。同時に、各定住地の事務所は、定住地内の諸組織や若年層の活動を把握して要望・意見を吸い上げて、CTA の関係官庁につなぐというボトムアップ型も推進している。定住地や個人は、CTA にアピールすることで正統性と資金を得て、生活を改善し、地域連携していく。つまり、チベット亡命社会は、トップダウン型 - ボトムアップ型の併用で海外援助の実施最適化を試みる。

各定住地の亡命チベット人が内外のドナーからの支援を得て自らの生活を安定させつつ、チベット問題の短期・長期的解決に向けた政策に関わっているのかについての具体的活動については、今後の継続調査で明らかにする。

参考文献

- Bernstorff., Dagmar and Hubertus von Welck, 2003, Exile as Challenge, Orient Longman.
- Enoki., Miki, 2007, "Stages of Democratic Development of Central Tibetan Administration" 『南アジア研究』第 18 号, pp.144~166.
- Kauffman., Thomas, 2015, "The Agendas of Tibetan Refugees."
- Library of Tibetan Works and Archives, 2019, "The Tibetan Diaspora", Library of Tibetan Works and Archives.
- London., Tony, 2016, "High Hopes", Library of Tibetan Works and Archives.
- Mehrotra., Rajiv (ed.), 2013, "Voices in Exile", Rupa Publications India Pvt.Ltd.
- Planning Commission, 2009, "Demographic Survey of Tibetans in Exile", Planning Commission, CTA.
- Rigzin., Tsewang, 2016, "The Exile Tibetan Community: Problems and Prospects", Library of Tibetan Works and Archives.
- Saklani., G., 1984, The Uprooted Tibetans in India: A Sociological Study of Continuity and Change, Cosmo Publications, New Delhi.
- SARD Annual Report 2019-2020, CTA.
- SARD Annual Report 2016-2017, CTA

主な参考ウェブサイト：閲覧日 2021 年 1 月 20 日

- グライ・ラマ法王日本代表部事務所ウェブサイト <http://www.tibethouse.jp/about/mainland/outline/>
- CTA 公式ウェブサイト：<https://tibet.net/>